

腫瘍を触知しないものに優れた成績を得ている。病理所見に於いては腺癌に最も多く生存例を認めている。

なお、癌の胃壁深達度と予後との関係。リンパ腺転移と予後との関係。切除断端。癌浸潤の有無と予後との関係について目下追求中である。

14. 重症肺結核の外科療法

金子兵庫 (国立千葉療養所)

内科的治療から見離され、外科的治療も安全には遂行し得ない重症肺結核のうち、術前肺機能よりみて所謂 border line と思われる2, 3症例について述べるとともに手術適応の限界について検討を加えた。

15. 化学療法中レ線上空洞影の消失した症例に就いての検討

久貝貞治 (社会保険病院松籬荘)

堀部寿雄, 北沢幸夫, 馬場理一,
太田茂男, 佐藤実, 住吉孝男,
浜田美志, 佐藤哲郎, 山田達哉,
安生久郎

当病院に就て昭和28年化学療法を施行した当初より本年6月に至る期間に診療した結核患者のうちレ線上空洞像を認めた症例で化学療法の経過中レ線学的に空洞像の消失した70症例に就て化学療法の種別と消失の時期及び種々なるバックグラウンドファクターに就て検討した。

質問 一外科 綿貫重雄

空洞の大きさとの関係はいかがでしょうか。

応答 久貝貞治

空洞の大きさについては、大きいものは消失率は低い、必ずしも消失しないわけではなく、空洞壁の性質によつては消失するものもあつた。また、肺野では中下野の空洞が他に比して少数であつたので言及しなかつたが、S₆の空洞は消失しにくい傾向の如くである。

16. X線活動写真の臨床的応用

窪田博吉 (河合外科)

X線活動写真の臨床的応用の現況について述べる。

1. 心臓血管造影

肺癌の手術適応。

2. 胃腸造影

胃疾患における運動の変化、小腸および大腸

に対する薬物の影響

3. 胆道造影

胆道疾患における、胆嚢および胆管の変化。

以上の所見について写真を供覧する。

追加 整形外科 鈴木次郎

鮮明な映画を拝見し、かつて我々が苦心していた頃を思い出し感慨無量であり、演者らの苦心のほどが察せられる。

「レ」線映画で現在もつとも望まれることは、もう少し長時間撮影の出来ることである。演者も勿論その点について、研究されていることと思うが、「レ」線発生装置のみならず、映画フィルムの研究と選択が必要になることと考える。私は最長2分間の撮影を行つたことがあるが、それも当時の発生装置であり、当然影像是鮮明を欠かざるを得なかつた。今後、ますますこの方面の研究の進展を期待したい。演者らの御努力を大いに期待する次第である。

17. 昭和30～32年度の放射線科における放射線治療の成績

寛弘毅, 市川平三郎, 渡辺勲,
有水昇, 荒居龍雄, 今井義雄,
中野政雄 (放射線科)

昭和30年1月から32年12月までの3年間に本学放射線を訪れた悪性腫瘍の患者の総数は965名である。

その内訳は、眼科領域腫瘍21例、口腔耳鼻咽喉科領域腫瘍152例、食道癌182例、胃癌110例、腹部腫瘍45例、肺癌39例、乳癌194例、女性性器癌58例、泌尿生殖器腫瘍13例、皮膚癌26例、甲状腺癌35例、骨肉腫12例、細網肉腫62例、淋巴肉腫症16例である。

良性腫瘍では血管腫50例、甲状腺腫20例の合計70例である。

以上の疾患について観察したが、それらの症例についての放射線治療の方法とその成績を報告する。

17. 脊椎々体前方固定の検討

鈴木次郎, 石橋文太, 石川芳光,
坂巻皓, 渡辺良彦, 小川源太郎,
岡野正, 斎藤幹 (整形外科)

経腹的椎体直達手術法に関する研究の一部に既に本会に於ても報告した所であるが、其後の研究、特に椎体前方固定に関する研究の成果を報告する。本手術法は最近迄に70例に於て施行している。その